酷暑の夏が去る

藤原　道夫

6 月半ばから９月半ばまで猛暑日やら真夏日が続き、例年より厳しく長い夏だったように思う。熱中症警戒アラートとか不要な外出は控えるようにという警告がしばしば出ていたが、暑さに順応するためと自分に言い聞かせ、連日のように近間には出かけた。しかし旅行に出る気は起らないし、涼しそうな山に登る体力はないと自覚する。時間を持て余す経験は初めてかも知れない。暇なうちに文をまとめておこうと、いくつかの作文を試みた。

求めておいた『老年の読書』は時折読んでいた。この本は長年大手出版社の編集長を勤めた前田速夫氏が自ら老年期に入ったと自覚し、それまでに読んだ本から老いと死とに関わる所をとり挙げて紹介している。大変な読書量で感心する。私はキケロやモンテーニュの文に特に惹かれている。彼らの文を紹介するとともに、引用のないゲーテの『ファウスト』から、最終章で扱われている魂の救済について考察を加えてみた。後者について３ページに及ぶ文は書いたものの、この本を読んでいない方々には分かり難いだろうと、ボツにした。

４月に逝去した教皇フランシスコに関連して、ローマやヴァチカンの風景が放映された。ローマはよく歩いたところだ、懐かしい思い出をたどりながら故教皇が埋葬されたサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂の界隈について書いてみた。珍しいモザイク画にも触れたが、どうも興味をひくような文にならない。これもボツにした。ただローマには名所旧跡が多いし、実際に見ている方もいるだろうと思い直し、ローマ散策の文に再度挑戦する積り。

涼しくなる頃には『悠遊』へ投稿依頼が来ると気付き、早々と取り掛かることにした。心がけの問題というより、丁度暑くなる頃からパソコンの不調に悩まされ、できる時に片づけておかねば間際になって苦労するだろう、という心配が先に立ってのこと。以前に書いた文が何らかの誤作動で消えてしまった経験がある。その文を二度書く気は起らなかった。
今、能に関連する文をまとめようとして難渋している。

こうしているうちに酷暑の夏も去っていった。

（2025，9，20 記）